幼児教育コーディネータ概論

第５講　「キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化」

久世　均(岐阜女子大学)

第５講「キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化」

【目　的】

幼稚園教諭として不易とされる資質能力と新たな課題に対応できる力並びに組織的・協働的に諸問題を解決する力を中心にキャリアステージに対応した幼稚園教諭の資質能力を明確化し，講座の学習目標の分析と構造化を図り，資質能力とのカリキュラムマップを作成するとともに各講座のタキソノミーテーブルについて考える.

【学習到達目標】

- キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力を説明できる.

キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化

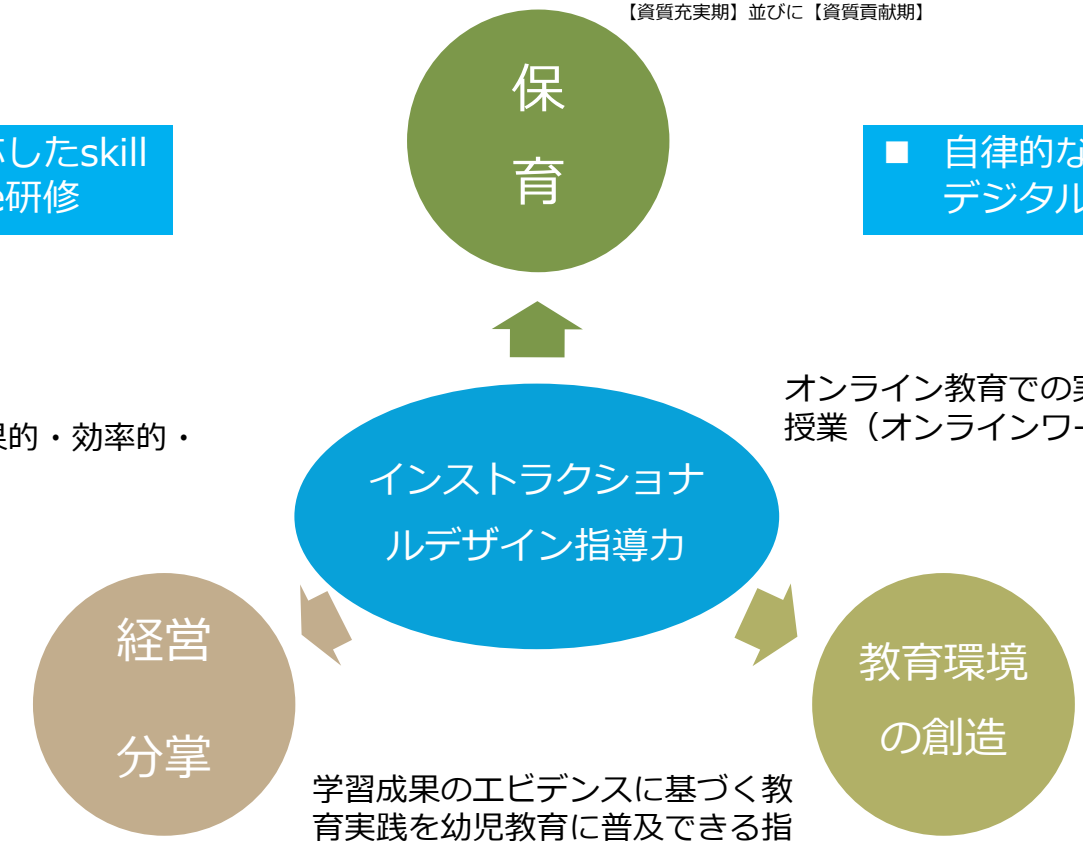
講座の基本的方針

1．学習者自ら学習計画を立て、自ら評価できること。
2．自身のこれまでの経験が学習の基盤となること。
3．学習の動機が日常生活や普段の仕事にあること。
4．学ぶことが目的なのではなく、問題解決が目的であること。

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【幼稚園等】【資質充実期】並びに【資質貢献期】

■ デジタル変革に対応したskill upからSkill change研修

■ 自律的なオンライン研修とデジタル変革への意識改革



オンライン教育における効果的・効率的・魅力的な教育プログラム

オンライン教育での実践的な課題解決型授業（オンラインワークショップ）

■ 知識・技能から資質能力への転換

■ 保幼こ小連携手法の確立

学習成果のエビデンスに基づく教育実践を幼児教育に普及できる指導力

※　インストラクショナルデザイン指導力：学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。
※　インストラクショナルデザインとは、「何を（What）できるようにするのか？」を明確にしたうえで、「どうやって（How）できるようにするのか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

幼児教育コーディネータの資質・能力の構造化

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標　改訂版【幼稚園等】における 【資質充実期】並びに【資質貢献期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
保　　育	保育構想 保育実践 評価改善	(1)自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 (2)幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (3)各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (4)自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 (5)自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 (6)他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。
教育環境の創造	幼児理解 生活の展開 発達の課題	(1)様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2)継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3)関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4)幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5)幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (6)幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
経　営　分　掌	学級・学年・園経営 連携・協働 危機管理	(1)自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 (2)自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 (3)他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 (4)広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (5)関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 (6)自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		(1)全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 (2)幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。
ICTや情報・教育データの利活用		(1)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (2)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン 研修成果の評価 ワークショップ	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学習がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

新たなキャリアである幼児教育コーディネータ の養成カリキュラムの開発

目　的

「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域、学校園における保幼こ小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とする。

履修証明制度とは、学校教育法第１０５条及び学校教育法施行規則第１６４条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するもの。

【履修証明プログラム】
本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」（BP）として文部科学大臣が認定するもの。

コース名	幼児教育コーディネータ養成コース　　(第１期～第３期（100名定員／期）)
趣旨・内容	本課程は、「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の立案実践能力、組織化、及び地域課題解決への具体的対応力を身に付けることにより、地域・学校園における幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とします。
対象者	次の（1）～（3）に該当する方とします。 （1）幼稚園教諭2種免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、幼稚園（特別支援学校の幼稚部及び幼保連携型認定こども園を含む）における教員として在職年数が、12年以上の方。(（(1)に該当する方については、2種免許状を1種免許状に上進可能） （2）幼稚園教諭1種免許状所持者でスキルアップを目指す方。 （3）幼稚園教諭としてお勤めで、管理職・マネジメントの職務についている方。
総時間数	7科目　77時間（履修証明プログラムは60時間以上）
コース修了条件	各講習における試験またはレポートによる最終試験を全て合格すること。
出願書類	1.　履修証明プログラム受講申請書 2.　写真　２枚

幼児教育コーディネータの開設科目

科目区分	科目名	授業形態	時間数	講義内容(案)
領域及び保育内容の指導法に関する科目	遊びと文化Ⅰ 遊びと文化Ⅱ	講義 講義	8 8	幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い，動くおもちゃを作る。その過程を通して，幼児に身に付けさせる力を考え，それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め，幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。
	保育内容（表現）	講義・演習	15	子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。
教育の基礎的理解に関する科目	教師論	講義	15	教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法・技術	講義・演習	15	教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模擬的に実践する。さらには、特に小学校教育以降において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模擬的実践を行う。
	幼児理解 教育相談Ⅰ	講義 講義	8 8	幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。

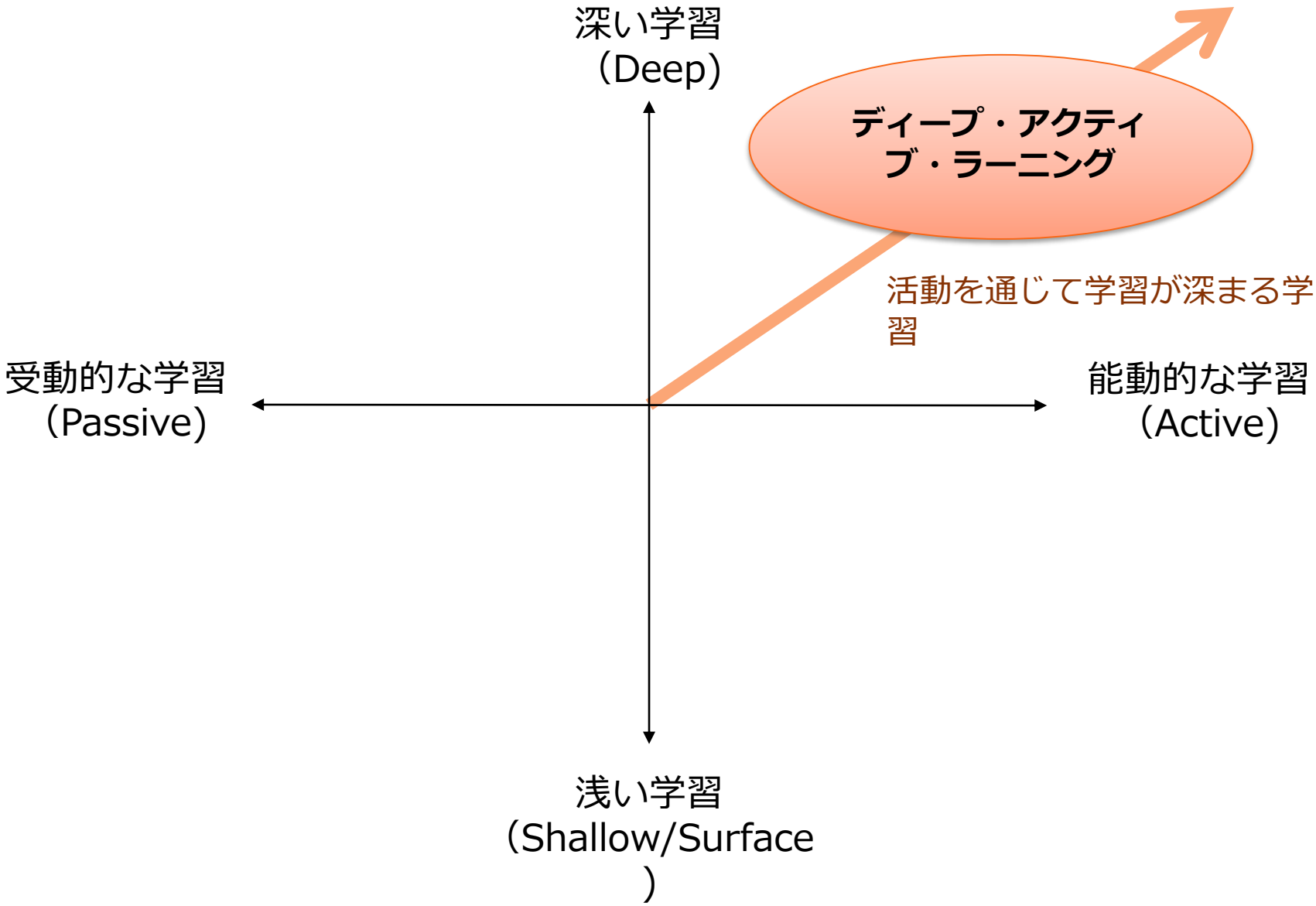
幼児教育コーディネータの資質・能力の教科毎の構造化

科目名	講義内容	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
遊びと文化Ⅰ 遊びと文化Ⅱ	幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い，動くおもちゃを作る。その過程を通して，幼児に身に付けさせる力を考え，それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め，幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。	(1)「自から知識を構成する」学習観である構成主義の学びと創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング）教育について事例を挙げて説明できる。 (2)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて 説明できる。 (3)インストラクショナルデザインを生かした教材を設計できる。 (4)様々な教育リソースを活用した研修講座を設計できる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
保育内容（表現）	子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。	(1)「自から知識を構成する」学習観である構成主義の学びと創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング）教育について事例を挙げて説明できる。 (2)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育リソースの活用について事例を挙げて説明できる。 (3)インストラクショナルデザインを生かした教材を設計できる。 (4)様々な教育リソースを活用した研修講座を設計できる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
教師論	教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。	(1)自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 (2)幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (3)各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (4)自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 (5)自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 (6)他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。 (7)自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 (8)自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 (9)他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 (10)広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (11)関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 (12)自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
教育の方法・技術	教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模擬的に実践する。さらには、特に幼児教育において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模擬的実践を行う。	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学習がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき,研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて　説明できる。 (7)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (8)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。
幼児理解 教育相談Ⅰ	幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。	(1)様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2)継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3)関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4)幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5)幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (6)幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。 (7)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (8)全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 (9)幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。

幼児教育コーディネータの学習目標の分析

科目名	一般目標	行動目標（行動で目標を示す）	評価条件（評価の条件を示す）	合格基準（合格基準を示す）
遊びと文化Ⅰ **遊びと文化Ⅱ**	幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い，動く紙おもちゃを作る。その過程を通して，幼児に身に付けさせる力を考え，それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め，幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。	１．動く紙おもちゃの指導案を作成することができる。 ２．動く紙おもちゃを動画を使って指導することができる。 ３．動く紙おもちゃの指導法により他の紙おもちゃの指導に応用することができる。 ４．動く紙おもちゃによる子どもの発言を分析して、指導方法と分析結果の評価ができる。 ５．動く紙おもちゃに指導によりどのような学びが発生したかを分析・評価できる。 ６．動く紙おもちゃを新しく創造し、指導できる。	１．動く紙おもちゃ指導の動画をデジタルアーカイブする。 ２．児童の観察をビデオで記録する機器の準備。 ３．ビデオで記録した児童の行動を様々な方法で分析評価で切るための準備。 ４．	１．動く紙おもちゃの指導案を作成。 ２．子どもの発言の分析 ３．子どもの学びを分析・評価 ４．新しい教材の開発と指導案の作成 上記の4課題の内3つ以上完成すれば合格
保育内容（表現）	子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。			
教師論	教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。			
教育の方法・技術	教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模擬的に実践する。さらには、特に幼児教育において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模擬的実践を行う。			
幼児理解 **教育相談Ⅰ**	幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。			

幼児教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン



資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書１：国立教育政策研究所（2015.3）

幼児教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン

教育目標の分類学（ブルーム・タキソノミー）

ブルームの教育目標分類学
【認知的領域】
（Bloom,B.S.他）

① **知識**	情報や概念を想起する
② **理解**	伝えられたことがわかり、素材や観念を利用できる
③ **応用**	情報や概念を特定の具体的な状況で使う
④ **分析**	情報や概念を書く部分に分解し、相互の関係を明らかにする
⑤ **総合**	様々な概念を組み合わせて新たなものを形作る
⑥ **評価**	素材や方法の価値を目的に照らして判断する

改訂版ブルーム分類学（Anderson,L.W.他）

知識次元	認知過程の次元					
	① 記憶	② 理解	③ 応用	④ 分析	⑤ 評価	⑥ 創造
事実的認識						
概念的知識						
遂行的知識						
メタ認知的知識						

梶田叡一（奈良学園大学長）著『教育評価（第2版補訂版）』（有斐閣）、国立教育政策研究所『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理』を元に整理

幼児教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン

学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

深いアプローチ

- これまで持っていた知識や経験に考えを関連づけること
- パターンや重要な原理を探すこと
- 根拠を持ち、それを結論に関連づけること
- 論理や議論を注意深く、批判的に検討すること
- 学びながら成長していることを自覚的に理解すること
- コース内容に積極的に関心を持つこと

浅いアプローチ

- コースを知識と関連づけないこと
- 事実を棒暗記し、手続きをただ実行すること
- 新しい考えが示されるときに意味を理解するのに困難を覚えること
- コースか課題のいずれにも価値や意味をほとんど求めないこと
- 目的や戦略を反映させずに勉強すること
- 過度のプレッシャーを感じ、学習について心配すること

Entwistle,McCune,&Walker(2010),table5.2(p.109)の一部を翻訳

活動の「動詞」から見る学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

学習活動	深いアプローチ	浅いアプローチ
●振り返る ●離れた問題に適用する ●仮説を立てる ●原理と関連づける ●身近な問題に適用する ●説明する ●論じる ●関連づける ●中心となる考えを理解する ●記述する ●言い換える ●文章を理解する ●認める・名前をあげる ●記憶する	↕	↕

Biggs&Tang(2011),Figure2.1(p.29)の一部を翻訳・作成

『ディープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために』第１章（溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）執筆）より　195

幼児教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン(例)

タキソノミーテーブル（教育目標の分類体系：タキソノミー）

(○○する力がある) 内容 事実、概念、手続き、メタ認知	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
	再認、再生	解釈、例示、分類 推論、比較、説明	実行、遂行	比較、組織、結果と原因	チェック、判断	生み出す、計画できる、汎化
	書く、暗唱する 組み合わせる 辞書・ネットで調べる	説明する 他に例える 要約する	道具や方法を選ぶ 実験や実演で試す プレゼンする	他の結果と比較する 基準に照らして考察する 図やグラフを組み合わせる	良否を判断する 優先順位をつける 採点・審査する	解決案を考案する 解決策の実行を管理する 解決システムを設計する
1.インストラクショナルデザイン	インストラクショナルデザインとは何か説明できる。	ＡＤＤＩＥモデルについて事例をあげて説明できる。				ＡＤＤＩＥのプロセスを検討し、折り紙を折れるようになる教材を作成できる。
２．システム的なアプローチによる講座の設計		サイモンのデザインの考えをもとに、授業デザインを状態記述と過程記述から事例をあげて説明できる。				各自の授業を取り上げ、状態記述と過程記述で授業デザインを図示できる。
３．２１世紀に求められる学力と学習環境						
４．研修の分析と設計						
５．学習目標のデザイン						
６．e-Learningの方法と技術						
７．ハイブリッド型授業の方法と技術						
８．魅力ある授業をつくる						
９．学習意欲を高める						
１０．協働的な学びをデザインする						
１１．ＩＣＴの活用とその効果						
１２．行動変容のモニタリング技法						
１３．教授・学習の理論と教育実践						
１４．「教えないで学べる」研修企画						
１５．ワークショップデザイン技法						

課　題

1. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力を説明しなさい.

2. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力は，どのような活動によって向上できるかについて具体例を挙げて説明しなさい.

3. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力ついて，自己をメタ認知し，どの部分が不足し，その不足を補う方法を説明しなさい.

第５講「キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化」

【目　的】

幼稚園教諭として不易とされる資質能力と新たな課題に対応できる力並びに組織的・協働的に諸問題を解決する力を中心にキャリアステージに対応した幼稚園教諭の資質能力を明確化し，講座の学習目標の分析と構造化を図り，資質能力とのカリキュラムマップを作成するとともに各講座のタキソノミーテーブルについて考える.

【学習到達目標】

- キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力を説明できる.

幼児教育コーディネータ概論

第５講　「キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化」

久世　均(岐阜女子大学)